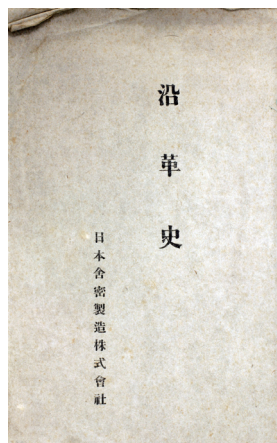


大戦景気



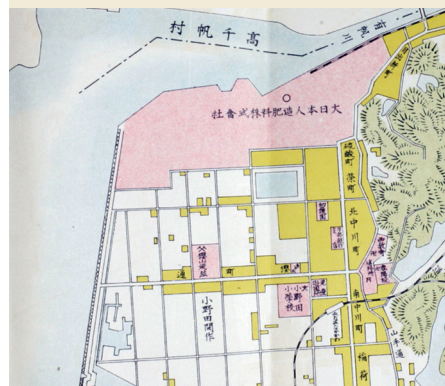
* 県史編纂所史料848「沿革史」

解説

第一次世界大戦により、日本経済は好況に転じました。繊維製品などの輸出先がアジア・アフリカに広がる一方、欧米からの輸入がとだえたため重化学工業が発展し、工業国としての基礎が築られました。

左の写真は1916（大正5）年発行の日本舎密製造株式会社『沿革史』です。この会社は、1889（明治22）年に設立された化学薬品製造会社で、本社は東京、工場は小野田に置かれ、硫酸・曹達（ソーダ）・晒粉（さらしこ）などを製造しました。

第一次世界大戦中に発行されたこの沿革史は、さばききれないほどの注文が舞い込み大戦景気に沸きたつ会社の様子を、次のように伝えています。「殊に欧州大戦乱勃発以来一層の活気を呈し東西南北より注文輻湊（ふくそう）応接に暇なき盛況を見るに至れり。我社は此機に際し一層基礎を鞏固（きょうこ）にして戦後の発展を綽々（しゃくしゃく）たる余裕の裡（うち）に所理し遺憾なからんことを期す」



* これは1933（昭和8）年ごろの小野田町の地図です。有帆川河口に広大な敷地を持つ「大日本人造肥料株式会社」は日本舎密製造株式会社の後身です。工場は「硫酸会社」として住民から親しまれ、工場が置かれた辺りは「硫酸町」とよばれて栄えました。なお、この工場の南方にセメントの製造で栄えた「小野田セメント」があり、工場付近は「セメント町」とよばれました（地図昭和00年代-14）。